

天気図を見たことがありますか？低気圧・高気圧の見分けがつかますか？気流は高気圧から低気圧へ流れていきます。これは聖書の原則です。へりくだるところに恵みは流れる・仕える人は高められる・貧しいところに喜びが与えられる…全て神さまの大原則です。「富んでるものは悲しみなさい。それがとられるときがくるから」とも言われます。ですから私たちはいつも心をへりくだらせなければいけません。だからといって、西高東低（気圧の流れ）でいなさいとは、言われていません。台風は上昇気流によって起こる下降気流によってできる低気圧の塊です。だから、台風は暖かいところから寒いところへ行けば行くほど消えていきます。暖かいところから寒いところに動いて行ってそこで受け続けて無くなるということ。となると、低気圧というのは基本的にいつも流している訳では無くて受けてるばかりなので、受ける時が終わると仕事は終わり…となってしまいます。楽しいときに喜ぶことは誰にでもできます。私たちはこの喜びを知りながら、色々な訓練も受けてきました。この訓練の中にあっても喜びを感じているのでしょうか？「なぜなら、神の国は飲み食いのごとではなく、義と平和と聖霊による喜びだからです。」(ローマ14:17)義をもち平和を求め、そして、聖霊様によって喜ばなければならぬのです。この喜びが受けるばかりでない、良い意味での低気圧であれば、私たちを通してたくさんの喜びがここに集まってきます。そしてこの喜びは、高気圧になって流れていく…このようではいけません。私たちは、喜びの流れを西高東低から南高北低にしなくてはなりません。冬の間には喜びをたくさん受けてそしてそれを台風のように多く流す存在にならなければなりません。西高東低でたくさん気圧（喜び）を受けたら恵みの雨を降らせましょう。私たちは自らが喜んで、そしてその喜びを受け流しているかどうか考えましょう。私たちは、自らが喜ぶことは大丈夫でも、その喜びを流しているのでしょうか？もう一度自分の使命を考えてみましょう。目的はそれぞれわかっていると思いますが、使命は自分も喜ぶが隣人も喜ぶことです。私たち自身が喜びを受けてそれを流しているかを考えましょう。教会もそうです。教会は低気圧で問題を抱えた人が多く集まるけれどもその中で神さまの聖霊による喜びを受けてその喜びが踊り出して町に流れる…。これが聖書の大原則です。西高東低であるならば（愛）を受けるだけではなく、もっと気圧を下げて大雨（恵み）を降らせる…それは南からの湿った力（神さまの聖霊による喜び）を受けなければならぬのです。これからクリスマスシーズンを迎える私たちは喜びの中に向かなければなりません。アドベントを迎える前に心の確認しましょう。私たちは喜んで、かつその喜びを流す準備ができていますか？では喜ぶためにはどうすればよいのでしょうか？ゲートルは「喜びには悩みが、悩みには喜びがなくはない。」アウグスティヌスは「いかなる場合にも、喜び大なれば大なるほど、それに先立つ苦しみも大なり」と言っています。いかなる場合にも喜びが大きければ当然その喜びの前には大きな苦しみがあります。悲しみがあるから主の喜びがわかるのです。神さまは悲しみを喜びにかえてくださいました。私たちはもう一度悲しみを喜びに変えなければなりません。(Ⅱコリ8:1・2) マケドニアでパウロが受けた艱難のように私たちも神さまの御前に正しく祈ってきかれると思っていたら様々な問題に巻き込まれた、と言うことがあるでしょう。でもこれは、私たちが信仰者であるか無いかを判断するには、また、このまずい問題が起きた時にいかに私たちが「神の国は、義と平和と聖霊による喜び」を実践するかが肝心なところ。今私たちに悲しみがあるなら、なぜそれが受けられるのか…神の国は私たちのものだからと言われていますが、私たちクリスチャンは神の国を追い求めているからたとえ私たちの目の前に苦難や問題が起きて神の国を貧しくひもじい者のように追い求めているからこの思いは変わらないということ。だから神の元から離れない私たちは世の中の人と違って喜びを受け取る（神の国を相続すること）ができるのです。（これがマタイの5章のことです。）私たちが神の御前に喜び、このことは御心であり大事なことです。そして御国を受け継ぎ私たちの元に栄光が現されるためには喜ぶことが最大限の理由です。喜びがあるかどうか、それも喜べるときに喜んでいられるのでは意味がありません。喜びを受け流すために**①悲しみから喜びましょう**。私たちクリスチャンが信仰を神さまにもっていると言うのであればこれができなくてはなりません。(ヘブル11:1) 信仰は望んでいる事を保証してくれます。目に見えないものを確信させてくれます。悲しみは望んでいることがまだ見えていないから「悲しみ」なのです。だから悲しみの中から喜ぶことができるのです。信仰は望んでいる事から保証し、目に見えないものを確信させてくれるからです。私たちが今悲しみの中から喜びを見いだしているかどうか確認してください。「問題が起きたとき、この上もない喜びと思いなさい」と、聖書は言っています。私たちが大きな器で大きな悲しみを乗り越えれば乗り越えるほど私たちの器はさらに大きくなります。だから喜びが入る量も増します。大きな訓練をこの上もない喜びと思いましょ。(ヨハネ16:19～21) これから与えられるであろう希望を私たちの努力と主の導きによって得られるのです。得られないものは何もありません。得られる術を全てもっています。そしてそれをとりなし支えてくれる家族があります。どんな苦しみや戦いや葛藤があってもそれを一緒に乗り越えようとする家族がいます。これが教会です。それを与えられている私たちは、これからその希望によって喜びを流していきましょう。次に喜びを受け流すために**②愛しましょう**。(ヨハネ15:9～13) 喜びが満たされるためには私たちが主の戒めを守って主の愛の中に留まっていなければなりません。私たちは本当にイエス様が私たちを愛してくれた愛で隣人を愛せているのでしょうか？愛するということは信じるということ。本当にその人のために、たとえその人が自らのために私を裏切ったとしてもその人のことを信じ続けるという愛です。私たちがその愛をもっているのでしょうか？本当にその人のことを愛し受け入れる気持ちをもって神さまの前に仕えているのでしょうか？その人のことを丸ごと受け入れて信じられるのでしょうか？それが私たちの仕事です。なぜかと言うと、イエスキリストは私たちのこの汚い心のために、それでも私たちに信じて今もとりなして祈っているのです。命をかけて十字架にかかれたのです。ですが、私たちはその愛を受け取ろうとしません。良いときには「神さまありがとう」と言って受け取っています。しかし少しでも嫌なことがあると私たちの心は神さまを阻害して不平に走ります。でも私たちがやらなければならないことは、そんな時にこそ愛さなければいけません。喜びを受け流すために**③進む先は天国です**。この地での喜びを得るために私たちは生活しているではありません。全ては天の御国に帰ることを喜びとして生きているのです。(マタイ5:1～12) 私たちは天での報いを信じて歩んでいるわけです。だから私たちの視線をこの地上に向けてはいけません。視線をこの地上に向けるとこの地上での報いしか受けることができません。だけど、その報いを天に向ければ神さまの喜びが天にあるという事を見れば、私たちはこの地上で「天の御国はその人のもの」の意味を知ります。天の御国はどこにあるかというイエス様は「ここにある」と言われています。イエス様自身が私たちの心にあることが天の御国があるということで、その人は悲しんでいても慰められ、そして柔和になるからその人は地を受け継ぐことができるのです。そして義に飢え渇くことでその人は満ち足りるのです。私たちの視線が悲しみから喜びを見いだすようになり、そして犠牲をもって愛するようになりそして進む道を天国に向けるなら、この地にあっても私たちは心の貧しいもののように天の御国を追い求める故にこの地上で多くの祝福を得、それは、私たちが得るためではなくてまたそれを流すために与えられている…悲しむものとともに悲しみ喜ぶものとともに喜ぶためにそうされるのです。そして、喜ぶものでいっぱいにされるのです。最初の御言葉（詩篇126篇）にあります。私たちの流れは、神さまによってネゲブのように豊かになると言われています。だから私たちはもう一度喜びを回復しなければなりません。何をしてもあっても、私たちが喜んで行く…聖霊さまの力によって内側からあふれ出る喜びを担うことが大切です。これは努力してできることではありません。神さまに聖霊さまを求めて私たちの心が喜びで満たされるようにダビデのように祈りましょう。私たちは自分の弱さや失敗・罪によって悲しみを引き起こします。しかしそこで悔い改めて神の前に喜びを見いだしましょう。悲しみの後には必ず喜びがあります。悲しみに終わらせないでください。神さまは私たちの心に喜びを与えてくださいます。「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」(マタイ6:33) だから、それを信じましょう。「信仰は望んでいる事から保証し、目に見えないものを確信させるものです。」(ヘブル 11:1) このことを心に思っただけで喜ばない時こそ喜んでいきましょう。(要約者：行司佳世)

